

れいしきかんそくき 零式観測機



艦船が射撃を行う際の弾着観測（弾がきちんと目標に届いたかを確認する役割）を目的として開発されたのが、水上観測機です。この観測機からの報告をもとに修正を行い、艦からの射撃精度を高めていきます。

零式観測機は昭和15（1940）年、海軍に採用されました。複葉式で、すぐれた運動性能をもっていたことが特徴です。戦うことができる観測機としてさまざまな場面で活躍しました。

水上機には水面に浮かぶためのフロート（浮舟）が備わっています。零式観測機は、中央に主フロート、左右に補助フロートがありました。補助フロートは、格納時に折りたたむことが可能です。



主フロート

名航 零式観測機

水面を滑走中の零式観測機



海の上も走ることができるよ！



大和ミュージアムサテライトに展示されている零式観測機の実寸大模型

